

華麗な大名の船をご覧いただくとともに、  
伊予水軍の歴史にも思いを寄せてください



松平頼学入国船行列図 個人蔵・和歌山県立博物館保管



西条船図 個人蔵・和歌山県立博物館保管

特別展関連「海のまなび講座」

「秀吉水軍としての加藤嘉明」

日時：11月7日(日) 13:30～15:00  
講師：村井祐樹氏(東京大学史料編纂所 准教授)

「高精細画像から紐解く幕末明治初期の日本」

日時：11月21日(日) 13:30～15:00  
講師：谷昭佳氏(東京大学史料編纂所 技術専門職員)

「海を渡る、宇和島伊達家の参勤交代」

日時：11月28日(日) 13:30～15:00  
講師：上田理沙氏(宇和島市立伊達博物館 学芸員)

「萩藩毛利家の御船手組 —「日本最大の海賊」のその後—」

日時：12月5日(日) 13:30～15:00  
講師：松花菜摘氏(今治市村上海賊ミュージアム 学芸員)

「大洲藩と松山藩の水軍基地を歩く—大洲市長浜・松山市三津—」

日時：10月17日(日) 9:00～18:00  
定員：20名  
参加費：4000～5000円程度  
※3～4kmの歩く行程があります



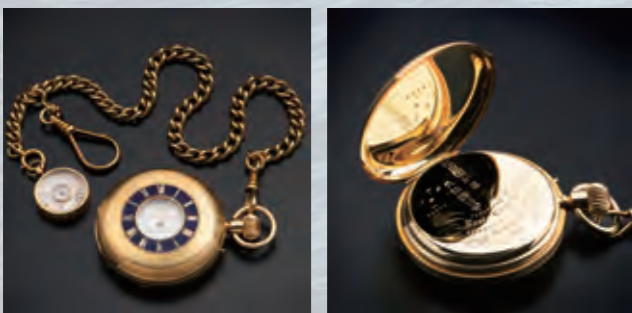
歴史

バスツアー

参加費  
事前申込必要

「西条藩の水軍基地と西条陣屋を歩く」

日時：11月23日(火・祝) 8:00～18:00  
定員：20名  
参加費：5000～6000円程度  
※3～4kmの歩く行程があります



星梅鉢紋入懐中時計 当館蔵

- マスク着用のうえご入館ください。
- 37.5度以上の発熱がある場合は入館をご遠慮ください。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、予定や内容に変更が生じる場合があります。ご来館前には、当館HPなどにより最新の情報をご確認ください。

サテライトシンポ

「大名の船—海の参勤交代—」

先着 140名、参加無料、申込不要  
日時：10月31日(日) 13:00～17:00  
場所：愛媛県総合科学博物館 多目的ホール

- 講演 「勤番武士の江戸滞在生活」  
岩淵令治氏(学習院女子大学 教授)
- 報告1 「阿波の水軍森家と徳島藩」  
根津寿夫氏(徳島市立徳島城博物館 館長)
- 報告2 「西条藩主松平頼純の生涯と国入りの船行列」  
前田正明氏(和歌山県立博物館 学芸課長)
- 報告3 「小松藩の参勤交代」  
井上 淳(愛媛県歴史文化博物館 学芸課長)

「サテライトシンポ」の会場は新居浜市の愛媛県総合科学博物館です。  
交通アクセスは科博HPをご確認ください。www.i-kahaku.jp



蜂須賀家御船絵巻 徳島市立徳島城博物館

観覧料  
大人(高校生以上)-800円(640円)  
65歳以上-400円(320円)  
小中学生-260円(210円)  
\*( )は20名以上の団体料金  
\*特別展の観覧券で常設展もご覧いただけます。



主催：愛媛県歴史文化博物館  
特別協力：船の科学館「海の学び」ミュージアムサポート  
後援：愛媛県市町教育委員会連合会・愛媛新聞社・NHK松山拠点放送局・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・愛媛CATV・ケーブルネットワーク西瀬戸・八西CATV・西予CATV・宇和島ケーブルテレビ・FM愛媛・FMがいのや

愛媛県歴史文化博物館  
MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE  
〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町 4-11-2 0894-62-6222 i-rekihaku.jp  
管理運営・指定管理者 いよてつ 総合企画



特別展

# 大名の船

—海の参勤交代—

令和3年  
10月16日(土)  
▶12月5日(日)

愛媛県歴史文化博物館  
MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE

〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町 4-11-2 0894-62-6222 i-rekihaku.jp

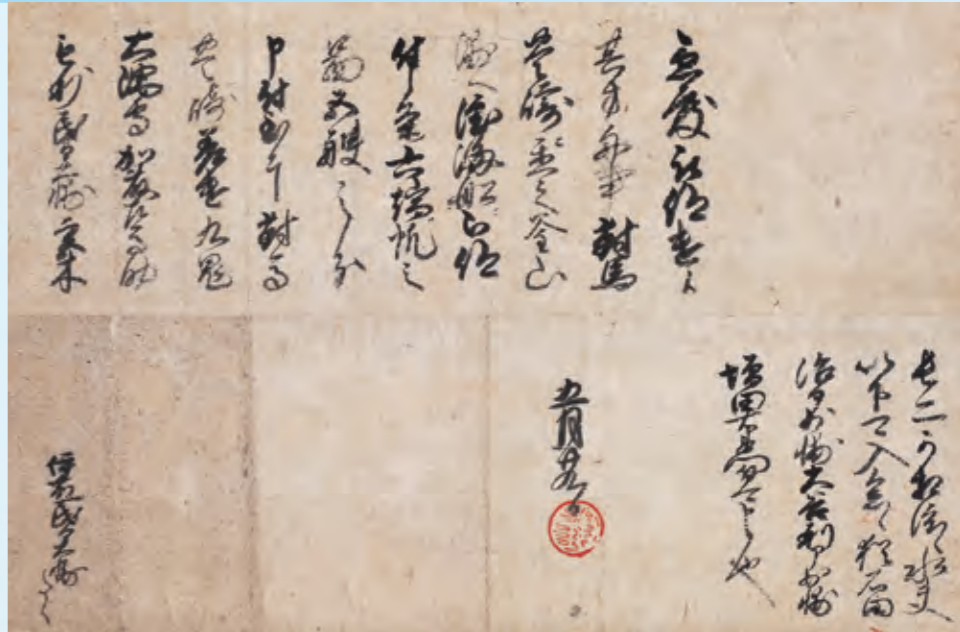


蜂須賀家御船絵巻 徳島市立徳島城博物館



### 網の目状に広がる参勤交代の航路

西国海路図屏風 船の科学館



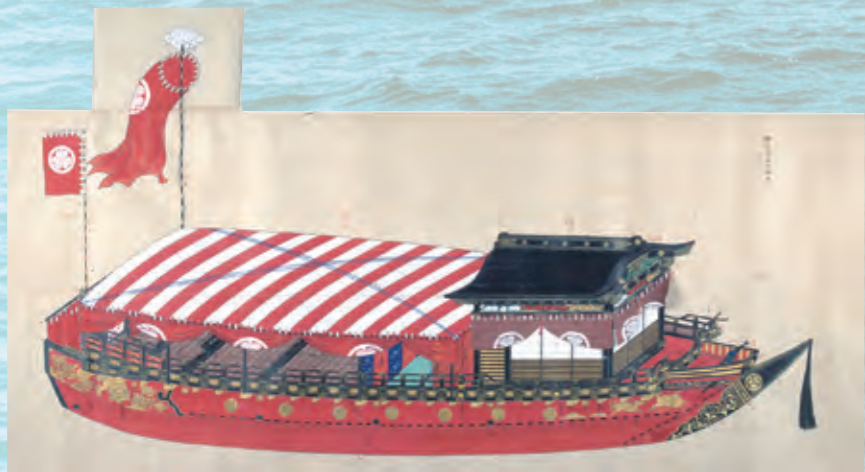
### 豊臣秀吉から大名への船舶供出命令

豊臣秀吉朱印状 徳島県立博物館



### 小早川秀秋が用いたとされる軍船

朝鮮之役小早川秀秋所用軍艦之図 船の科学館



### 和歌山藩の海御座船の勇姿

御召万歳丸絵図 個人蔵・和歌山県立博物館保管

## 伊予をはじめとする西国大名の船や瀬戸内海を進む船行列を紹介

本特別展では、伊予をはじめとする西国大名の船の姿や海上での大名行列ともいわれる華麗な船行列の模様を、絵画史料や古文書を通じて紹介します。また、参勤交代に関連して、大名が設置していた大坂蔵屋敷や江戸屋敷についてもあわせて取り上げます。瀬戸内海を彩った大名の船をご覧いただくとともに、本展を通じて伊予水軍の歴史にも思いを寄せていただけたら幸いです。

天下統一を目指す豊臣秀吉にとって、瀬戸内海は西日本を征服するために重要な水域でした。その中でも伊予は、秀吉の朱印状にも「九州・中国のかなめ所」と記されており、最も重要視された地域といえます。戦国時代、能島村上氏や来島村上氏など海賊衆が活躍した伊予においても、海賊停止令を経て海賊衆は独立性を失い、代わって加藤嘉明や藤堂高虎が新たに所領を与えられ、その水軍力をもって朝鮮で文禄・慶長の役を戦うこととなります。

その後、関ヶ原の合戦、大坂の陣により、徳川幕府による平和な時代が到来すると、それまでの戦闘を目的としていた水軍の船も、参勤交代の際に人を運ぶという交通の手段となっていきました。九州・四国・瀬戸内の西国大名だけに、瀬戸内海を渡海して大坂までの船の使用が認められ、それらの大名による豪華な装飾を施した御座船を中心とする船行列は、海のページェントとしての様相を呈していきました。



### 船大工が製作した大洲藩の海御座船の雛形

駒手丸模型 住吉神社蔵・長浜ふれあい会館保管

### 宇和島藩の華麗なる船行列

押船行列之図 (公財)宇和島伊達文化保存会

